

ぶんぼう

① 規則や義務を表す表現

1.1 規則と禁止事項

れんしゅう 1-2

「Vてもいい」 規則上、許可されている事柄について、言う表現である。

帰る	→	帰ってもいい
借りる	→	借りてもいい
する	→	してもいい

疑問文の場合、ある規則について、可能かどうか尋ねる表現になる。

あきこ：リーさんの学校では学生がエレベーターに乗ってもいいですか。
リー：はい、乗ってもいいです。

「Vてはいけない」 規則上の禁止事項について、言う表現である。‘

使う	→	使ってはいけない
いじめる	→	いじめてはいけない
来る	→	来てはいけない
けんかする	→	けんかしてはいけない

「Vてもいい」の疑問文に対する否定の答えとしても使われる。

リー：あきこさんの学校では学生がエレベーターに乗ってもいいですか。
あきこ：いいえ、乗ってはいけません。

または、禁止事項を示す表現である。

こうはいをいじめてはいけません。
映画館でけいたい電話を使ってはいけません。
ろうかを走^{はし}ってはいけません。
あそこに、たばこをすってはいけないと書いてあります。

1.2 規則や義務と、する必要のないこと

「Vなければならない」

れんしゅう 3

規則や義務、する必要のあることを言う表現である。動詞は、ない形にし、以下の通りに活用する。

話さない	→	話さなければならない
つけない	→	つけないなければならない
あいさつしない	→	あいさつしなければならない
来ない	→	来なければならない

食事する前に手を洗わなければなりません。
日本語のじゅぎょうでは、日本語で話さなければなりません。
学生は学校のきそくをまもらなければなりません。
おとしものをひろったら、先生にとどけなければなりません。

疑問文の場合、ある規則において、それが義務であるかどうかを尋ねる表現になる。

学生：毎朝ちょうれいに出なければなりませんか。
先生：はい、毎朝出なければなりません。

「Vなくてもいい」

れんしゅう 4

規則や義務ではないことや、する必要のないことを言う表現である。動詞は、ない形にし、以下の通りに活用する。

いそがない	→	いそがなくてもいい
運ばない	→	運ばなくてもいい

答えない	→	答えなくてもいい
来ない	→	来なくてもいい

「V なければならない」の疑問文に対する否定の答えとしても使われる。

学生：毎朝ちょうれいに出なければなりませんか。
 先生：いいえ、毎朝出なくてもいいです。

または、規則上は義務ではないことや、する必要がないことを言う表現である。

兄の学校ではせいふくを着なくてもいいです。
 今答えなくてもいいですよ。よく考えてから^{こた}えてください。
 いそがなくてもいいですよ。まだ時間がありますから。
 あのテーブルは使いませんから、^{はこ}運ばなくてもいいです。

② **Adj いく / Adj なに V**

れんしゅう 1

形容詞が、動詞を修飾する場合は、次のように活用する。

い形容詞：	「い」→「く」	早い	→	早く
な形容詞：	+「に」	しずか	→	しずかに
★例外：		いい	→	よく

男の学生はかみを^{みじか}短く切らなければなりません。
 女の学生はかみを長くのばしてもいいです。
 お客さんが来るから、教室をきれいにそうじしてください。
 漢字はゆっくりていねいに書いてください。
 ゆうべおそくねたので、ねむいです。今晚は早くねます。

③ **V たまま / N の まま**

れんしゅう 2

ある状態が変化せず、依然として続くことを表す。名詞あるいは動詞の過去形と一緒に使う。

N のまま	パジャマのまま
V たまま	パジャマを着たまま

毎朝、パジャマのまま新聞をとりに行きます。
 (=パジャマを着ていた。着替えないでそのままとりに行った。)
 さしみは^{なま}生のままの料理です。
 (=火を通さないでそのまま)
 くつをはいたままほけんしつに入らないでください。
 (=くつを脱がないでそのまま)
 学校のせいふくを着たまま映画館へ行ってもいいですか。
 (=着替えないでせいふくのまま)
 父はゆうべとともつかれていたの、いすにすわったままねました。
 食堂^{しょくどう}の時計は止まったまま、うごいていません。

④ **(期限) までに**

れんしゅう 3

時点を示す名詞の後に「までに」をつけ、期限を表すことができる助詞である。

ほんやくのしゅくだいはあさってまでに出示してください。
 毎朝7時半までに学校へ来なければなりません。

「までに」は期限や締め切りを示し、その時点になる前にある事柄が実現することを表す。一方で、第3課で学習した助詞「まで」は、ある継続的な動作が完了する時点を示している。

7時までにしゅくだいをします。(=7時より以前の時間に、宿題をする)

7時までしゅくだいをします。(=ずっと宿題をしており、7時に終わる)

⑤ 許可を求める表現

れんしゅう6

5.1 Vでもいいですか。

ある事柄について、許可を求める表現である。例えば、試験の答えを鉛筆で書くことについて、生徒が先生に尋ねる場合である。この質問に対する答え方は、規則や義務の疑問文に対しての答え方とは異なる。

質問 : 答えは、えんぴつで書いてもいいですか。
肯定の答え : はい、いいですよ。
否定の答え : いいえ、えんぴつで書かないでください。
 : いいえ、ペンで書いてください。

5.2 Vでもいい。

禁止されていないことについて、許可・許容を与える表現である。

ここのお客さんはとなりの店のちゅうしゃ場に車を止めてもいいです。
こくばんの字が見えない人はせきをかわってもいいです。
あしたパーティーに友だちをつれてきてもいいです。

5.3 Vなくてもいいですか。

ある事柄について、しないことの許可を求める表現である。例えば、靴を脱がずに教室に入ることについて、生徒が先生に尋ねる場合、答え方は次のようになる。

質問 : くつをぬがなくてもいいですか。
肯定の答え : はい、いいですよ。
否定の答え : いいえ、ぬいでください。

5.1「Vでもいいですか」、5.2「Vなくてもいいですか。」では、否定の答えも紹介した。しかし、話し手が相手に配慮する時や、直接的に否定することができない立場や場面の場合、相手と良い関係を保つために、「すみませんが」の後に断る理由を付け加えることで、丁寧且つ遠回しに断る表現もある。

〈BはAに窓を開けてもいいかどうか聞かれた。Bは、強風で自分の書類が吹き飛ばされてしまうことを心配したため、丁寧に断る〉

A: まどを開けてもいいですか。
B: すみませんが、風がありますから、……。

〈Aは、Bに借りた辞書をまだ返さなくてもいいか聞いた。Bは貸した辞書を使いたいため、断る〉

A: このじしょは今日かえさなくてもいいですか。
B: すみませんが、今日使いますから、……。

⑥ ~んです。

まんがでまとめ

「~んです。」の話し言葉で、前述の事柄について、詳しい情報や説明をした際の文末につける表現である。

〈ナッターが青木の写真を見て、青木の髪の毛の色が茶色であることに気づいた。あきこは、青木の髪の毛について、情報を与える〉

ナッター: この人が青木よしえさんですか。かみが茶色いですね。
あきこ : ええ、そめているんですよ。

〈あきこが向かいの暗い家について話すと、ナッターは、その事情を説明する〉

あきこ : あの家は三日も電気がきえたままですね。
ナッター: ええ。ヨーロッパへ旅行に行っているんです。

疑問文「~んですか。」は、ある事柄に関する説明や情報について尋ねる表現で、タイ語の[rǎə]で終わる

質問に近い。例えば、チェンマイから帰って来た友達の鞆を見て、どこでその鞆を手に入れたか尋ねる。
すてきな鞆ですね。チェンマイで買ったんですか。

肯定の答えは、「はい、そうです。」となる。否定の答えでは、正しい情報を述べ、説明することが一般的である。

いいえ、姉に貸してもらったんです。

また、思いがけない事や意外な事、不思議な事があつた際も「～んですか。」を用いて、説明を求めることもできる。例えば、話し手は、どこの学校でも靴を脱いで教室に入るものだと思っていたが、聞き手の学校ではそうではないことを知った。その際に、不思議に思い、以下のように尋ねる。

くつをはいたまま教室に入ってもいいんですか。

この「～んですか。」は、第16課「どうしたんですか。」の文末表現と同様のものである。つまり、第16課では、相手の顔色や様子に不思議に思い尋ねる場面で、相手は「気分が悪いんです。」と、顔色が良くない理由や事情を説明したのである。

⑦ **QW でもいい**

まんがでまとめ

無条件で、許可をする際に使う表現である。

何でもいい	[àray kô dâý]	だれでもいい	[khray kô dâý]
いつでもいい	[mûaray kô dâý]	どこでもいい	[thûi này kô dâý]

A: この本をあさってまで借りていてもいいですか。

B: その本はもう読んだから、いそがなくてもいいです。いつでもいいですよ。

A: どこにすわったらいいですか。

B: どこでもいいですよ。

A: トムヤムにはえびを入れなければなりませんか。

B: いいえ、魚でもいかでも何でもいいですよ。

ぶんぼう

① Plain Form そうです。

れんしゅう 1

話し手が聞いたり読んだりしたことを伝える表現である。「そうです。」の前の「普通形で終わる文」は、話し手が他から聞いたり読んだりして得た情報を示す。

リーさんは一人っ子ひとりだそうです。

お茶ちやは体からだにいいそうです。

東北とうほくの町はよくこうずいになるので、たいへんだそうです。

北きたの地方ちほうでは、さくらは四月のはじめごろにさくそうです。

ファーストフードはさいきん地方ちほうでもふえているそうです。

山川先生はまだけっこんしていないそうです。

★この場合の「そうです。」には、過去形や否定形はない。

情報源を述べたい時は、文頭に「情報源+によると」を加える。

先生によると、今度のテストはむずかしいそうです。

すずきさんの話によると、日本のおぼうさんはけっこんしてもいいそうです。

天気よほうによると、今年のかんきは特に寒くなるそうです。

新聞のニュースによると、火事のげんいんはたばこだそうです。

② Plain Form と思う

れんしゅう 2

動詞「思う」は、ある事柄に関する自分の意見や感想、感情などを述べる時に使う。疑問文にすると、相手の意見や感想、気持ちを尋ねることができる。

バスは不便ふべんなので、タクシーで行った方がいいと思います。

よくおぼえていませんが、銀行は三時半まで開ひらいていると思います。

ガスのねだんはこれ以上いじょう安くならないと思います。

A: あしたのサッカーの試合、タイのチームがかつと思いますか。

B: はい、かつと思います。

A: AとBと、どちらが正ただしいと思いますか。

B: Aが正ただしいと思います。

★第三者の感想などを述べる場合、「～と思っている」が使われる。

わかい人は西洋せいようから来たものはかつこいいと思っています。

③ Vてくる / Vていく

れんしゅう 3

「Vてくる」は、現在で継続的に変化したことを表す。この変化は、既に起きた事柄であるため、過去形「きた」となることが多い。

米こめのねだんがだんだん下くだがってきました。

日本では 1975 年ごろから子どものかずがへってきました。

ガソリンのねだんはせんそうが始まってから、きゅうあに上あがってきました。

「Vていく」は、これから継続的に変化することを表す。この変化は、未来で起きる事柄であるため、Vます形か辞書形がよく用いられる。

ガソリンのねだんはこれからも上あがっていくと思います。

たばこをすわない人はこれからもふえていくと思います。

④ 理由に関する質疑応答

れんしゅう4

第10課「どうしてですか。」以外にも、「どうして+普通形で終わる文+んですか。」の文型で、原因・理由を聞くこともできる。

どうしてこうつうじゅうたいがひどくなったんですか。
どうしてみんなといっしょに映画を見に行かないんですか。

答える時や原因・理由を述べる時は、「普通形で終わる文+からです。」の文型を用いる。

A: どうしてこうつうじゅうたいがひどくなったんですか。
B: 車が多くなったからです。
A: どうしてみんなといっしょに映画を見に行かないんですか。
B: あした試験があるからです。

田中 : どうして日本語の勉強を始めたんですか。
学生A: 日本のまんがが好きだからです。
学生B: 日本の文化にきょうみを持っているからです。
学生C: 日本人の友だちができたからです。
学生D: 日本のまんがが読めるようになりたかったからです。

この表現は、原因・理由を説明する普通形の文を述べ、述語として「です」を文末につける文型ある。一方、第10課「(理由を表す文)+から」は話し言葉で、原因・理由の部分だけを述べ、その後の結果の部分が省略された不完全な文である。

A: どうしてみんなといっしょに映画を見に行かないんですか。
B: あした試験がありますから (行かないんです)。

⑤ 動詞の名詞化「の」

まんがでまとめ

「の」を普通形動詞につけると、その動詞は名詞となる。普通名詞と同様に、主語や目的語になる機能を持つ。第9課「VdicのがAdj」と同様のものである。

ファーストフードばかり食べるのは体からだによくないと思います。
かみをそめるのは悪いことではないと思います。
わたしは花をそだてるのが好きです。
北山きたやまさんにもつを運ぶのをてつだってもらいました。

「の」で名詞化した動詞の主語は、第20課の連体節の主語と同じように、助詞「が」で示される。

パイリンさんはお父さんがむかえに来るのを待っています。

↑
「来る」の動作主

⑥ Vdic / Vない ことにする

まんがでまとめ

ある事柄について、するかしないかの決意を表す。

今日の昼ご飯はファーストフードを食べることにしましょう。
バスが来なかったので、タクシーで帰ることにしました。
この問題もんだいについては、アンケートでみんなにいけんを聞いてみることにします。
いろいろ考えましたが、じゆくへ行かないことにしました。

ぶんぼう

① N1 のような N2

れんしゅう 2

N1 は N2 の例を示す。N2 がどんなものなのか、具体的な例を N1 で挙げる。

画家やまんが家のような仕事をしたいです。

私はせがひくいので、バスケットボールのようなスポーツはにがてです。

ラヨンやプーケットのような、海がある県で働きたいです。

グアバやみかんのような、ビタミンCが多いくだものをたくさん食べた方がいいですよ。

形容詞や動詞の具体的な例を挙げる場合、N1 は「ように」を用いて形容詞や動詞を修飾する。

れいのように書いてください。

リーさんは日本語が上手です。私もリーさんのように日本語が上手に話せるようになりたいです。

② 意向形

れんしゅう 3-5、7

活用は次の通りである。

Vグループ1 辞書形の最後の音/u/行を、/o/行にし「う」をつける。

会う	→	会おう
おく	→	おこう
泳ぐ	→	泳ごう
話す	→	話そう
待つ	→	待とう
死ぬ	→	死のう
よぶ	→	よぼう
読む	→	読もう
帰る	→	帰ろう

Vグループ2 「る」をとり、「よう」をつける。

おりる	→	おりよう
わすれる	→	わすれよう

Vグループ3

する	→	しよう
来る	→	来よう

③ V 意向形 と思っている

れんしゅう 5

話し手が、以前から将来的に、しようと思っている事柄を述べる表現である。

大学でテレビや新聞について勉強しようと思っています。

しょうらい日本にりゅうがくしようと思っています。

意志動詞の代わりに、「Vたい」を使うこともできる。可能であればやりたいという、以前からの願望を表す。

できたら、両親のために新しい家を建てたいと思っています。

新聞きしゃやニュースキャスターのような仕事をしたいと思っています。

「意志動詞 + と思います」の文型の場合、話し手がその時点である事柄をしようとしたことを表す。

あきこ：二万パーツあったら、何に使いますか。

リー : そうですね。新しいスマホを買おうと思います。

④ Vなら

れんしゅう6

「なら」は、第18課「Nなら」のように、相手の言及したことを取り上げて、それについて助言や提案を与えたりするための表現である。相手の言及したことを取り上げたものが動詞と形容詞の場合、普通形にして「なら」の前に置く。ただし、な形容詞は「だ」を省く。

A: 私^{わたし}のゆめは、がいこうかんになることです。

B: がいこうかんになりたいなら、いろいろな外国語を勉強した方がいいですね。

A: タイの祭り^{ぶつきょう}と仏教^{けんきゅう}のかんけいについて研究してみたいんですが、……。

B: 仏教^{ぶつきょう}にきょうみを持っているなら、後でいい本をしょうかいします。

⑤ S1でも、S2

れんしゅう7

「でも」は逆接の接続表現である。S1の事柄が実現したと仮定した場合でも、話し手がS2を実現させる気持ちは変わらないことを表す。あるいは、S2の結果は変わらないことを表す。活用形は次の通りである。

動詞

「て」形に「も」をつける。

行く	→	行っても
きめる	→	きめても
する	→	しても
来る	→	来ても

い形容詞

い → く + ても

むずかしい	→	むずかしくても
せまい	→	せまくても
まずい	→	まずくても

な形容詞 / 名詞 「でも」をつける。

たいへん	→	たいへんでも
雨	→	雨でも

否定形は、「い」形容詞と同様に活用する。

かてない	→	かてなくとも
新しくない	→	新しくなくとも
有名ではない	→	有名ではなくとも

試験におちても、なきません。

大学の勉強はたいへんでも、がんばります。

あした雨でも、試合があります。

こいびとが作った料理なら、まずくても、食べられます。

日本の会社^{かいしゃ}で働きたいので、大学で日本語が勉強できなくとも、日本語の勉強をつづけようと思っています。

今日の試合にかつてもまけても、先生が晩ご飯をごちそうしてくれるそうです。

仮定部分の主語(S1)と主文の主語(S2)が異なる場合、仮定部分の主語(S1)は「が」で示す。

両親がはんたいしても、私^{わたし}はアルバイトをしようと思います。

ぶんぼう

① S1 と、S2

れんしゅう 1-3

ある物事の性質や自然な成り行きを表す条件文である。S1 が実現すると、必ず S2 が実現するという意味である。特に、自然現象や習慣について述べる際によく使われる。S1 の述語は普通形で、た形は使わない。

このボタンをおすと、おゆが出ます。
このへんは雨がふると、こうずいになります。
私はすっぱいものを食べると、いつもおなかをこわします。
このきかいは電池がないと、動きません。
このスーパーは夕方だと、パンやケーキのねだんが安いです。
にもつが大きいと、かばんに入りません。
使い方がふくぎつだと、わかりにくいです。

② 自動詞・他動詞

れんしゅう 4

自動詞とは、目的語を持たない動詞である。「たつ」「ねる」などの主語の動作を表す動詞や、「なおる」などの主語の変化を表す動詞がある。

他動詞とは、目的語を持つ動詞である。主語が人や物に対して行う動作を表す。例えば、「書く」「なおす」などである。

日本語には、自他対応の動詞のペアがある。例えば、「開く／開ける」「つく／つける」「きえる／けす」「ならぶ／ならべる」である。

人や動物が、ある物に対して行う動作を表す時は、他動詞を用いる。

ニパーさんはだいどころの電気をつけました。
どこに和英じてんをならべましょうか。
先生は 6 時半に学校の門を開けます。
今日はすずしいですから、エアコンをけしてまどを開けましょうか。

主語は動作が行われた対象で、その動作の結果や状態を表す時は、自動詞を用いる。

スイッチを入れると、電気がつきます。
左のたなに和英じてんがたくさんならんでいます。
学校の門は何時に開いて、何時に閉まりますか。
エアコンもきえているし、まども閉まっています。

③ Adj く / Adj に / N に する

れんしゅう 5

ある物事の状態を、その形容詞や名詞 の状態に変えることを表す。タイ語に直訳できないものが多い。

今勉強しているので、テレビの音を小さくしてください。
すみませんが、エアコンを少し弱くしていただけますか。
赤ちゃんがねているので、しずかにしてください。
もう少しねだんを安くしたら、もっと売れるかもしれません。
トイレはいつもきれいにしておきましょう。
この教室をパーティーの会場にしましょう。
つぎのことばをてきとうな形にしてください。

④ V1 て V2

れんしゅう 6

V1 は V2 の動作の状態や姿勢、態度、方法などを説明する。

夜、フラッシュをつけて写真をとると、きれいにとれます。
今朝、父は大きいかばんを持って出かけました。

声を出して読んでください。

時間がないから、急いで食べましょう。

休みの日はうちで本を読んでゆっくりすごします。

コーラにこおりを入れて飲みます。

⑤ **V1 ないで V2**

れんしゅう 6

V1 の動作を行わずに、V2 の動作を行うことを表す。

かさをささないで雨の中を歩くのが好きです。

はをみがかないでねると、むしばになりますよ。

ヘルメットをかぶらないでバイクに乗ってはいけません。

きょうかしよを見ないで、先生の質問に答えてください。

⑥ **N が ほしい**

はなしてみましよう

ある物を手に入れたいという話し手の希望を表す。

空をとべる車がほしいです。

人間のことばが話せるペットがほしいです。

この町の地図がほしいです。

外国人の友だちがほしいので、りゅうがくせいパーティーに出ることにしました。

話し手の希望を表す「ほしい」や、第 18 課「V たい」のような表現では、第三者の希望を表すことはできない。第三者の希望を表す場合は、本人や他者から聞いて知る事柄であるため、「ほしい / V たい + ~とっています」という表現を用いることが一般的である。

兄はもっとじゆうな時間がほしいとっています。

父は自分で車をなおしてみたいとっています。

⑦ **(所要時間) で**

まんがでまとめ

ある物事を完成や完了させるために必要な時間を表す。可能動詞や「できる」「終わる」「着く」「卒業する」などの完結を意味する動詞と共に使うことが多い。

カップラーメンはおゆを入れて一分でできます。

くうこうはここから遠くないので、車で二十分ぐらいで行けると思います。

このかいぎはいつも二時間ぐらいかかりますが、きのうは三十分で終わりました。

もしもし、あと十分で着くので、ちょっと待っていてください。

このレポートを一日で書くのはむりだと思います。